

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100128		
法人名	社会福祉法人 健慈会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設 グループホームぬくもり(さくらユニット)		
所在地	岩手県九戸郡野田村大字玉川第5地割45-22		
自己評価作成日	平成28年11月11日	評価結果市町村受理日	平成29年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;Ji_gvosvoQd=0393100128-00&amp;Pref_Qd=03&amp;Ver_si_onQd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;Ji_gvosvoQd=0393100128-00&amp;Pref_Qd=03&amp;Ver_si_onQd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年12月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの意思を尊重しながらも安全な生活を送れるように職員同士が連携をし、統一した支援をしていく。トランプ・かるた・パズルなどを毎日、利用者が自然に集まり楽しませているにぎやかなユニットです。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームぬくもりは、特養ホーム、デイサービスなどが併設された複合施設となっている。それぞれのサービス事業所との連携も図られている。また、グループホームは、地域密着型サービス事業所として、運営推進会議が適切に活用されており、区長、民生委員、行政、利用者、家族の参加を得て、回を追うごとに出席率が良くなってきている。春には昼食会を兼ねて夏には夏祭り併せ、実施している。今後は、避難訓練時に同会議を行うことも考えており、一層、地域や関係機関との意見交換、情報収集の場となっていく様子が感じられる。また、職員の向上心の高さや、雰囲気作りの「質」の高さにより、居心地の良さを感じることが出来る。利用者それぞれに気を配り、声をかけている様子は温かさが窺い知れる。認知症の特性にも配慮し、職員の異動も極力行わないよう取り組んでいることは、利用者の安心へもつながっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼と定例会議で理念の確認をしている、またユニット独自の毎月の目標を提案し季節毎の目標に向け取り組みを行っている	今年度は2ヶ月に1回のユニット会議の他、毎日の朝礼等で理念の確認を行っている。理念を根底においたユニットごとの目標を設定し日々取り組んでいる。理念の在り方としてすべての職員へその内容が浸透し、立ち返るべきものとし、自分たちで新たなものを作り上げていくことも含め、職員間の共有と実践に向けた取り組みを行っていくことを更に望みたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所・学校との交流が定着している、また社協からのお弁当の利用も出来るようになり楽しみが増えた	地域の社会福祉協議会で行っているお弁当の宅配を当事業所でも取り入れており、月に数回、利用している。さらには、地域内のマミーストアのお弁当の利用も行っており、地域資源の活用がなされている。学校、保育所との交流はもとより、消防団との関係や、部落との関わりも広がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度も畑の借用を継続し地域の方との関わりをもったり、地域の各機関からの協力依頼に対応し認知症の理解に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年々、委員である関係機関や部落の方との活発な情報交換や意見を頂き施設のサービス向上に活かすことに繋げていると感じる	運営推進会議は、当初より意見交換が活発になってきていると感じると共に回を追うごとに出席率もよくなってきている。区長、民生委員、行政、利用者、家族の参加を得て開催されている、行事の報告等を行い、意見をもらっている。春には昼食会や夏には夏祭りと絡めて会を実施し、今後は避難訓練時に同会議を行うことも考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議の参加、各機関との連携を取りながら協力関係作りをし、利用者のサービスに悩んだ時に情報・アドバイスをもらい助けて頂いている	社会福祉協議会や行政など、他機関との協力関係は構築されている。社会福祉協議会主催の認知症普及啓発等の寸劇への参加なども積極的に取り組んでいる。また、行政も、事業所運営上の困難な案件等の相談を受けてくださるほか、助言等もいただいている。各所と良好な関係が築かれている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束について定期的に学び職員全員が理解していくように取り組んでいる	身体拘束関連の勉強会を行っている。また、事業所内で身体拘束に関する職員アンケートを実施することで意識し、共有するようにしている。マニュアルもある。併設で特養ホームやデイサービスもあり、ヒヤリハットなども施設(事業所)全体で回覧しており、意識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で学ぶ機会を持ち、サービス計画作成時やユニット定例会議でカンファレンスを行い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	施設の相談員・管理者は外部の講習に参加し必要時に備え学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧な説明を行っているが、入所後も様々な家族からの不安や疑問にはその都度、対応し不明瞭なことがないように職員全員で努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が常に家族や利用者からの意見や要望を聞けるよう普段から心がけている、また意見や要望は随時、管理者と職員で共有し運営の反映に努めている	最近新しく入居した方への対応として様子伺いや、思い等を細かく聞くよう取り組んでいる。また長く住んでいる方への傾聴も大切にしている。家族との関わりについても、難しくも感じるが思いを汲み入れられるよう頑張っている。利用者の方の機能低下等による車いす利用に変更になる際に、利用者本人の心の不安や混乱を招かないよう注意深く対応し、スムーズに移行することができている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット定例会議で職員から積極的な意見が多く上がっている、また施設の全体会議では代表者を中心とした話し合いの場も設けている	全体会議が3~4ヶ月ごとに1回行われており、その内容を受けてユニット会議が行われ、活発な意見交換が行われている。ユニット会議で話し合いたい内容を書き込める用紙があり、それに書き込み、会議に諮られている。管理者は職員の様子を見ながら、声掛けや気持ちを聞いたり、より良い職場環境となり得るよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務希望を考慮し勤務してもらい長期な勤務と向上心保持に努めている、給与についても資格・経験を考慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講習には職員のやりがいに繋がるよう参加してもらっている、資格取得については取得後の昇給アップ、正規職員への変更等を検討しているが資格取得への補助等は検討中		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部講習やGH協会の講習会・交換研修への参加、連携施設との合同研修会等で同業者との交流する機会を作るよう努めている		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の情報を元に入所初期は丁寧に時間をかけ傾聴し早く安心した生活を送れるように努めている、また得た情報はカルテに記録し職員間で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の入所初期と同様だが、常に家族からの思いを聞き、家族と支援の方針を共有出来るように関係作りの重要性を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が職員を信頼してくれる関係性作りに努めながら家族と協力し、丁寧に「その時」必要な支援をしている、時には法人内で連携しサービスの提供もしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所期間が長い方もあり利用者と職員が互いに家族のような関係になってきている、お互いを気遣い助け合う姿が見られ『共に過ごし支えあう関係』が築けてきている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には日ごろの様子を伝え、また職員と家族の協力で支援が来ていること、利用者は家族を必要としている事を説明して対応している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に差し入れを持参する家族や自宅へ行き、馴染みの美容院へ行ったり・近所の方々とお茶をするなど関係継続できている方もいる、しかし殆どの方は受診や買い物で地域の方と会い声をかけられ談話する等が見られる	入居契約時に、利用者と家族との関係が遠くならないようにお話しし、そのことを入居してからも意識しながら支援している。家族等の来訪時には、居心地の良さを作り、長く居ていただけるようにしている。衣替えなど、利用者によっては家族に行ってもらっている。また、通院時に、知り合いと会い、そのことがきっかけで事業所に遊びに来てもらったこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや趣味で常に仲良しが出来ている、隣のユニットにトランプに行き来したり合同のレクリエーションを行い交流している、休息以外は皆さん共有空間に集まり過ごされている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入退所時には、その旨を家族へ説明している、相談支援依頼には対応する心構えではいるがまだない、併設の特養施設に移られた方とは合同の行事や口腔体操時等に交流している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員に遠慮する方には定期的に家族から伺い、思いを把握出来るように努めている、悩んだ時は本人本位を心掛け定例会議で相談し検討している	入居時には、面談用紙に利用者にかかわる情報の聞き取り(本人・家族等)の内容を記し、入居後は日常の関わりの中で情報を集め、思いや意向を知り得るための手掛かりとしている。利用者の趣味など、ケアプランに活かしながら本人本位に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報から会話を広げ本人、家族・親戚等、面会の方から聞き生活歴や様々なサービス利用の経過の把握を行っている、年数が経過してもまだまだ新しい情報を聞くことも多く常に職員間で情報の共有に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	調理の手伝い、掃除等で個々の役割を持ってもらいながら一日の過ごし方、心身状態、有する力を把握している、徐々に変化していく状態を職員が共有して個々の尊厳が維持出来るようにケアしながら支援している		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎のサービス計画作成に向け、ユニット定例会議で話し合い、課題によっては早急な話し合いの場を設けて現状に適した介護計画の作成に努めている	ケアプランの更新・変更は3ヶ月ごとに行っている。利用者の既往症等によっては医師の助言や意見が含まれている方もいる。ケアプラン作成の流れとしては、利用者担当者が現状のケアプランの確認を行い、ユニット会議に諮り、ケアマネジャーが作成している。	利用者の思いや意向の引き出しをする取り組みを行うことを期待したい。日常生活に大きな変化が見えないように感じる場合でも、利用者本位を念頭に置き、より本人らしく生活できるような視点を培っていくことに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の小さな変化に気づくように日々の関わり・観察・記録を大切にし毎日の朝礼で情報の共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内でのサービスに拘らず利用者が一番と考え法人内で協力し、今までも減塩食を提供してもらった等、柔軟な支援やサービスの提供に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校の行事見学、お祭り見学、病院受診、買い物等で地域の方や関係者から声をかけてもらい、地域での暮らしを楽しんでいる、ボランティアや訪問も増えている		
	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の、かかりつけ医との関係を大切に受診時は家族へ情報提供書を用意し、必要な時は職員も付き添ったり電話で相談をして適切な医療を受けられるように努めている	利用者それぞれのかかりつけ医に通っているが、入居の際に認知症の症状により紹介状を書いてもらって病院を変えた方もいる。かかりつけ医との関係性は良好で、医療機関からは必要に応じて電話でアドバイスをもらうこともある。通院介助は原則的には家族が対応しているが、必要に応じて同行したり、事業所で対応することもある。スムーズな受診が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護職員が利用者の状態をみているので情報の共有ができていて、心身の変化時は相談しやすく適切な対応を迅速に取れる状態である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、施設では入院手続きが終了まで関わり情報提供している、また入院中も連絡を取り退院後の安心した生活や治療に繋がるように努めている		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段から家族と利用者の状態について話し、重度化した場合、利用者と家族、介護、看護と話し合い、それぞれの思いを聞き今後の支援を相談している、また看取りの講習会に積極的に参加している	看取りへの対応は行うこととしているが、これまで例がない。指針等の作成については、これから取り組んでいきたいと考えているが、隣接の特養ホームとの終末期に関する方向性の違いもあり、取り組みが進まない状況もある。重度化や終末期に対する考え方の整理と職員の勉強の機会が必要と思われる。	利用者の加齢とともに、身体機能の低下などから、重度化や、更には終末期への対応が求められることが考えられる。重度化や終末期に対する職員の知識の醸成と、不安軽減のためにも学習する機会を作ること期待したい。また、本人・家族の安心のためにも指針の作成、説明の機会を作っていくことも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全対策委員会、研修委員会の勉強会に参加し実践力を身につけるよう努めている、また利用者それぞれのリスクを定期的に見直し職員の意識の保持に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	部落の消防団の協力を得て避難訓練を行っている、今年は台風の被害で停電があったが普段からの施設・職員の訓練・経験・準備等で利用者が不穏になることもなく対応できた	部落長や近隣の方々に、事業所の避難訓練に参加協力をしていただいたが、なかなか協力を頂けていない状況がある。今後は事業所から近隣への発信を継続的に行い、応援者を作っていくことも必要と思われる。火災想定避難訓練を行っている。今後は夜間時に職員のみでも、訓練を行い、有事への備えを万全にする取り組みが重要になってくると思われる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いにならないように職員同士で言葉使いを注意し合うよう日々、声を掛け合い気をつけている、居室については職員・利用者共にプライベートな空間を保持できるよう常に出入りの際には言葉掛けを行っている	利用者の事柄について話す際には、ご本人が特定されないよう使う言葉にも気を付けている。利用者の呼び名は利用者の好みに合わせて決めている。言葉遣いについては、対利用者はもちろんのこと、職員間での言葉遣いも気を付けており、共有空間の雰囲気作りも大切にしている。トイレ時の声掛けも、気分を害さないよう気を付けて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思表示に対し共感の姿勢で傾聴し、また利用者同士の会話等からも利用者の希望・自己決定に気付けるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は皆で揃って食べられるようにしているが、その日の心身の状態を見ながら本人の希望に添い、日々の役割・入浴・食事の嗜好も同様な対応し、一日を穏やかに過ごせるように支援している		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節・気候を考慮しながら本人・家族と相談し行事・外出に添った身だしなみのお手伝いをしている、衣替えや補充も家族にお願いし、利用者からの買い物希望には職員が付き添い、その人らしいおしゃれが出来るように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好や病気を考慮しながら、お誕生日には好みの献立にし、毎週火曜日(夕食)は利用者が考えた献立日を設けて食事を楽しんで頂けるようにしている	食事を楽しむために、様々な方法で食事の提供をしている。社会福祉協議会やマミーストアの弁当配送利用、春先には外で食事を行ったり、焼き芋をして食べたこともある。利用者の考えたメニューを献立に取り入れたたり、お寿司の日もある。山口食堂などへの外食もしている。利用者によっては食事時の役割を持ってもらい、楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を多めに摂取してもらおう献立作りを心掛け、食事の残量をチェックし体調の変化にも気付けるようにしている、検診や体重測定で栄養状態の確認とコントロールをしている、水分量の確保は個々の嗜好を把握し好みの物を提供し確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人で村内の歯科医の協力を得て口腔ケアの取組みをしている、定期健診やユニット毎の目標を設定し常に清潔保持に向けた支援をしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツやリハビリパンツへ移行時も尊厳と残存機能を大事にしながら、定期的にトイレへ誘ったり多様なパットを試し使用した支援に努めている、また家族へも常に日常の様子を伝えオムツ等への意向時、受け入れ出来るよう関係性作りにも努めている	水分摂取は、三食のお茶のほか、10時と午後3時のお茶の時に、しっかりと取っていただくようにしている。食事の前のトイレを習慣としているが、個々の排泄パターンを把握し失敗のないようケアに当たっている。個々の排泄機能が維持できるよう取り組んでいる。事業所内を歩いて、軽運動も行うことで腸内活動へ働き掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保・野菜の味・運動への働きかけの工夫等を行い自然排便に繋がるように努めているが必要な方には医師と相談し個々に合った便秘薬を慎重に使用している		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安となる曜日は決めているが朝に入浴予定を伝え本人の希望で変更等に対応し、入浴をゆったりと楽しめるように好みを把握して支援している、ADL低下の方には中間浴を使用してもらい個々に沿った安全な支援に努めている	入浴に関して、一番風呂、熱めのお風呂、ぬるめのお風呂など、利用者の好みに合わせて対応できるよう取り組んでいる。入浴を好まない方への対応時には、以前は家族からの協力もいただき、対応していたが、現在では職員の声掛け等で入浴できている。利用者の身体の状況により、適切に入浴の支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は思い思いに過ごされているが、昼夜逆転気味の方には日中の活動の働きかけを行い安眠に繋がるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴を下に受診後の処方を確認し変更時はカルテ・連絡ノート・申し送り職員全員が周知出来るように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で利用者同士の役割が出来ている、職員が感謝の気持ちを忘れずに、利用者が張り合いに繋がるように声掛けを忘れないようにしている、また季節毎の行事やレクリエーションを企画し楽しみや気分転換の機会を作っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には戸外へ散歩へ出掛け、ドライブで村内や隣町の道の駅やショッピングを企画して気分転換に努めている	気候や天気によっては、事業所裏の公園に散歩に出かけている。また遠出では、普代や久慈にドライブしたり、近くの道の駅で、ソフトクリームを食べたりと楽しんでいる。家族や親戚の方に声掛けをし、個別の外出への支援も行い、外出や、お盆や正月に自宅に帰れるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時、家族に認知症の理解をして頂いて本人が所持されて、定期的な施設への訪問販売で買い物したりドライブレクリエーションで個々に買い物を楽しんでもらえるよう努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方にいる方には特に電話をお願いし、穏やかな生活に繋がるように、施設では季節の絵手紙作りを行い、思い思いの家族に送り返信してもらう楽しみを感じている		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は衛生面を第一に、季節を感じる草花や行事・畑仕事等の写真を飾り、居心地の良い空間作りに努めている	共有空間は、車いすの方が動きやすい動線を作るようにしている。また利用者の好みの座る位置を把握し、意向に沿った席に座れるように支援している。また、利用者同士の関係性のフォローに職員が入ったりして共用空間の雰囲気作りにも気を付けている。2ユニットの間にある中庭には季節によって、花々が咲いており、利用者は鑑賞し、楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昔からの知り合い同士でソファで談話したり、同じ趣味の方でテーブルを囲んだり、思い思いに過ごされている、またテレビの前で一人ゆっくり楽しんでいる姿も見られる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族が相談し居心地の良い居室を作れるように、馴染みの物や季節の物を持ち寄ってくれ殺風景にならないようにと、お願いし職員はお手伝いしている	利用者個々の居室の入り口には、思い思いの暖簾がかかっている。日中は、ドアを開けていることが多いため、簡易な目隠しの効果もある。備え付けは、ベッド、床頭台、小整理タンス、洗面台である。利用者によってお位牌を持ってきており、水を供えたり、時期によってはご飯をお供えするお手伝いも行っている。外出時には、お供えするお菓子(お饅頭)を買っていかない?など、利用者の気持ちを察した対応をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自立した生活を送れるように居室には目印をトイレには張り紙をして、車椅子・シルバーカーでスムーズに移動出来るように安全面を考え家具の配置等に努めている		